

特集記事

Fw:東北 Fan Meeting 東北デジタル創生塾 Vol.1 「デジタル活用で描く新しい東北の未来」

[シェア](#) [Tweet](#)

投稿日:2022年6月22日 カテゴリ: Fw:東北FanMeeting

Fw:東北 Fan Meeting 東北デジタル創生塾 Vol.1 「デジタル活用で描く新しい東北の未来」イベントレポート



東日本大震災の発災から11年が過ぎ、その間にITなどのデジタル領域では技術、サービスが大きく進化し、私たちの暮らしも変化を遂げてきました。今はデジタル田園都市構想を掲げ、民間においてもデジタルの活用で社会課題解決に挑む起業家などが、地域で活動を起こす例も増えてきました。一方で、東北はデジタルの活用に大きな余地を残しており、暮らしややまみをめぐる地域の課題解決や、若い人々の活躍の場を作るためにも、デジタルによる変革は大きな期待を寄せるべきところです。今回のFw:東北Fan Meeting 東北デジタル創生塾では、デジタルの活用を訴えながら東北の未来を拓く活動をしているゲストを招き、彼らが実践する活動事例や描いている構造をヒントに、難しく考えがちなデジタル活用を、東北の課題解決にどう取り込んでいくべきか、東北に起こっているあらゆる社会課題と照らし合わせながら考えました。

藤井 靖史 氏 (西会津町 CDO[最高デジタル責任者]/総務省 地域情報化アドバイザー/内閣官房 情報通信技術総合戦略室 オープンデータ伝道師)



藤井さんから、高齢化率50%をこえる福島県西会津町のDXを教えていただきました。OODA（ウーダ）ループ「みる、わかる、さめる、うごく」の必要性が紹介されました。とくに、地域に出て、町を観察し、データを「みる」こと、地域の課題、リスク、町の状態をデータから読み解く「わかる」を重視しているそうです。西会津町はスマートタブレットの使い方など、デジタル技術に関して幅広く相談を受け付ける「デジタルよろず相談室」「デジタル教室」を開設しました。高齢者を含めて様々な人と対話から本来の課題を探りユーザー視点を得ることが大事、とのことでした。また、Web3、Web2.0との取組みについても説明されました。日本のデジタル化は15年遅れていて、特に自治体が時代の変化を感じているか疑問が投げかけられました。

藤井さんは最後に、昭和を脱却して時代に合わせていくことがDXなのではないかと、コメントしてくださいました。

Web3…ピットコインやNFTなど、ブロックチェーン技術により情報を分散的に管理して、大手検索エンジンや大手SNSプラットフォームを用いなくても必要な情報のやり取りができる仕組みを指して用いられる。

Web2.0…インターネット上のWebサービスの形態を表したもの。発信者が限定的・一方向的だったそれまでのWebサービスと違い、SNSなど多くの人が発信者になれる、情報の相互利用環境を指して用いられる。

福留 秀基 氏 (株式会社MAKOTOキャピタル 代表取締役/一般社団法人 DX NEXT TOHOKU 理事))

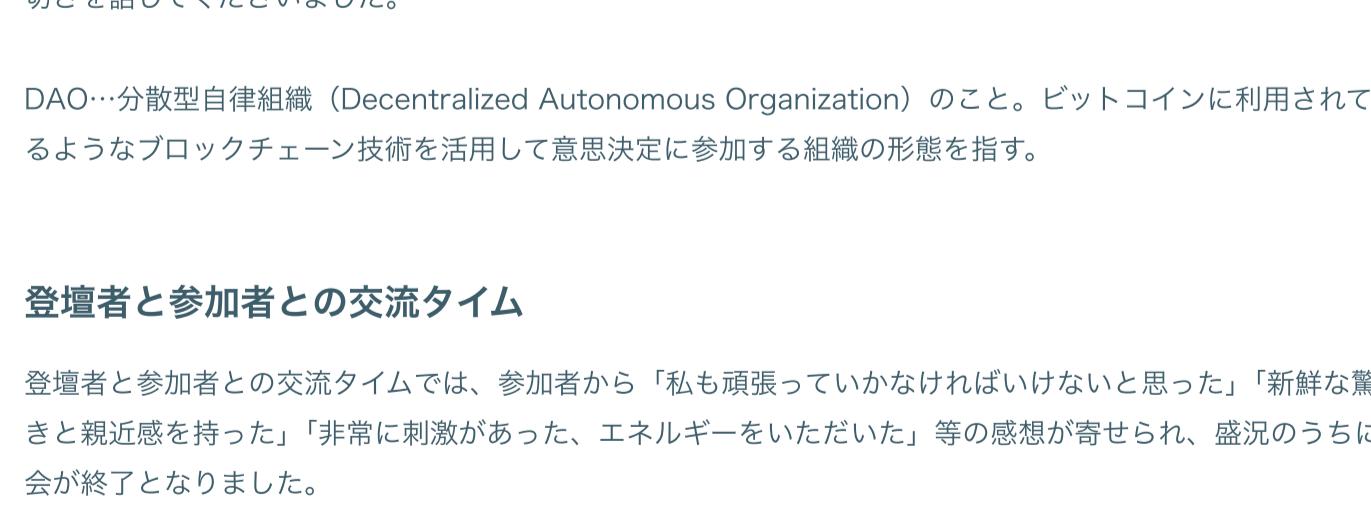


福留さんは、幼稚園の頃からデジタル技術に触れているデジタルネイティブ世代です。東北の起業家、企業に向けて、デジタル技術を用いた経営コンサルティング事業をされています。

福留さんは、企業DXは取組みであり、現行ビジネスで起きている様々な荒波を乗り越えて次の時代を生き抜くためのものだと考えているそうです。事業承継や跡継ぎの問題をサポートする必要性を感じているとのことでした。

DXの取組み方として、ただIT化するだけではなく、データを集約、分析して、戦略を策定し、向かうべき方向性を決めることが大切だと指摘されました。

中軽米 真人 氏 (八幡平市役所 商工観光課 課長補佐 兼企業立地推進係長)



福留さんは、過疎地だからできる未来の課題解決について「起業志民Project」の取組みを教えてくださいました。

なぜ人口減少が起きるのか、数字や事実を積み上げ、課題の本質を見極めることが必要であることが指摘されました。検証の結果、八幡平市には望む仕事がないことが最大の理由で、特に情報通信業が不足していることが推論できたようです。

解決策として、IT起業家育成のために、未経験者に3ヶ月かけてプログラミング、経営、新規事業開拓の手法を完全無料で提供する「スマートキャンプ」、5年無料で使用できるシェアオフィス「八幡平起業家支援センター」、資金調達をハンズオン支援する手法を取り入れました。また、起業して経験を積んだメンバーがスマートキャンプの講師として後進の育成を行う、という好循環になっているそうです。

人口減はビンチではなく次世代の成長産業をつくるチャンスであり、ITで誰もが幸せに暮らせる人口減社会の実現、働いて楽しまちを目指している、とのことでした。

トークセッション



「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

カテゴリ

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2023

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2022

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2021

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2020

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2019

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2018

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2017

● 「新しい東北」復興・創生の星顕影2016

● Fw:東北FanMeeting

● インタビュー2018

● みちのくみっけ

● 東北の明日を切り拓く

● 東北の「新たな挑戦」

協議会の会員による

様々な復興支援活動は[こちら](#)

お問い合わせ

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局担当

株式会社 JTB

Mail : new-tohoku@jtb.com

Tel : 03-6737-9291

復興庁 Reconstruction Agency

「新しい東北」官民連携推進協議会

